

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第116回



今井 優菜
不動産学部
3年

上野駅周辺は、駅と路線を境に二つ

のエリアに分かれている。西側の公園口には文化・歴史エリア、東側の広小路口・不忍口には商業・にぎわいエリアが広がる。

文化・歴史エリアには、

東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館など、日本を代表する文化施設が集積して

いる。歴史・科学・芸術を一度に学ぶことができる、全国でも数少ない貴重な場所である。

一方、商業エリアの中心となるのが、JR上野駅からJR御徒町駅まで約500メートル続くアメ横商店街である。戦後の闇市から発展したアメ横は、当時は生活必需品や米軍物資が販売され賑わったことが名前の由来

とされる。

7月上旬、ゼミ活動で2つのエリアを見学した。その中でも国立西洋美術館に関心を強く持った。本館

東京・上野に建つ芸術的建築物の価値

将来的な増築を見据え設計

自然光を効果的に取り入れる工夫など、近代建築を代表する特徴が数多く取り入れられている。

建築を直にみると、写真以上にスケールが大きく感じられ、広がりのある空間に圧倒された。館内は渦巻き状の動線が意識され、作品を鑑賞しながら自然に次の展示室へ進める構造になっていた。建築そのものが

芸術作品の一部となっているように感じ、美

は、世界的な建築家であるル・コルビュジエが設計した日本で唯一の作品であり、2016年には世界文化遺産に登録された。建物は鉄筋コンクリート造で、“無限成長美術館”という考え方を基に将来的な増築を見据えた設計が採用されている。また、柱だけで建物を支えて1階に開放的な空間を生み出すピロティや、

術に詳しくない私でも西洋美術の歴史を時代順に楽しみながら学べる空間がつけられていた。計算された空間やコンクリートの仕上げ、吹き抜けや採光が総じて美しく、コルビュジエの建築に魅了された。

国立西洋美術館の見学を通して、国際的に高く評価され続ける建築のあり方に感銘を受けた。時を経ても

価値を失わないその設計思想は、現代のマンションや投資用物件などにも応用できるものであり、優れた耐震性や防火性といった実用面での強みも備えている。これまで私は、日本の伝統や魅力は木造建築にあると考えていた。しかし今回の見学を経て、鉄筋コンクリート造が持つ独自の魅力と可能性に気付かされた。周囲の景観と調和し、末長く価値を保ち続ける鉄筋コンクリート建築は、これからの時代にこそ不可欠な存在になると考える。

【教員コメント】

今井さんは、コルビュジエの思想が建築物の随所にどのように表れているのかを、現地でスケッチしながら読み解いてくれた。歴史的な建築物を過去のものとして捉えるのではなく、込められた思想を現代の建築に生かそうとする視点が興味深い。

(秦瑞希)